

4. 流況

名蔵湾沿岸地帯に発達する藻場及びサンゴ礁域にフェフキダイ類幼稚仔が来遊し6月～9月の間幼若魚が分布する。(1渡辺) そのため名蔵湾に来遊する卵稚仔の補給経路を推定するため、湾内の潮流観測を実施した。

調査期日：昭和58年8月23日 大潮

(1)調査方法：観測点を図-5のとうり27点設定し、各St. 毎に低潮時から高潮時までの上げ潮時と高潮時から低潮時までの下げ潮時に分けて、流向流速、水温、塩分を測定した。使用機器はCM2型電氣流速計、オートラブ・ポータブルS-T計602型を用いた。位置の決定は山あて法に拠った。また海流ビン調査を前日(8月22日)に併せて実施した。

(2)結果；①上げ潮時：上げ潮時の水平流況は、全体に湾口から湾奥へ向けて流入しており、沿岸沿いにみると観音崎から南側沿岸沿いに流入するのと、大崎から赤崎に向けて北岸沿いに流入するのがみられる。

流速は弱く大部分10cm/s以下であった。

(図-6)。水温、塩分の水平分布(図-7)をみると赤崎～ミジュン崎の北側沿岸は比較

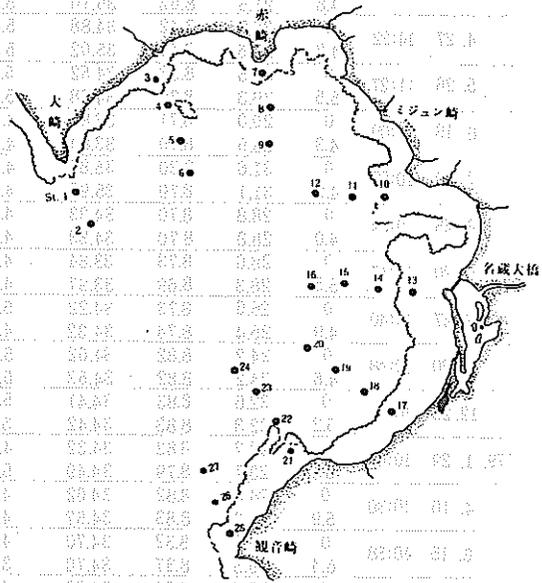


図-5 流況及水温・塩分観測点

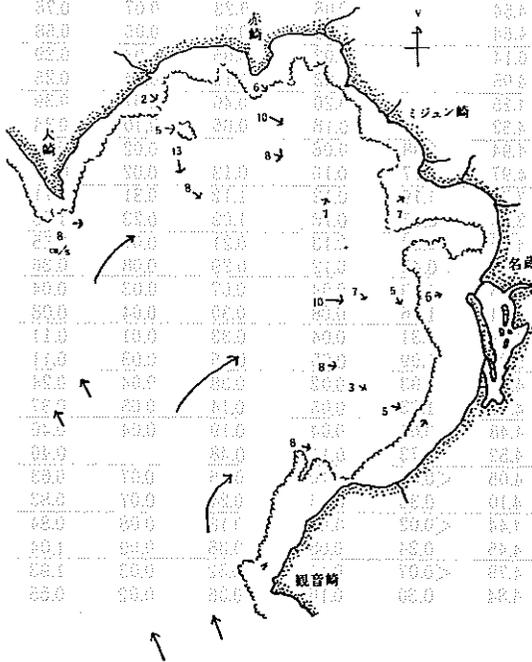


図-6 上げ潮流況図 単位cm/s 数値は流速
昭和58年8月23日14:35～18:05

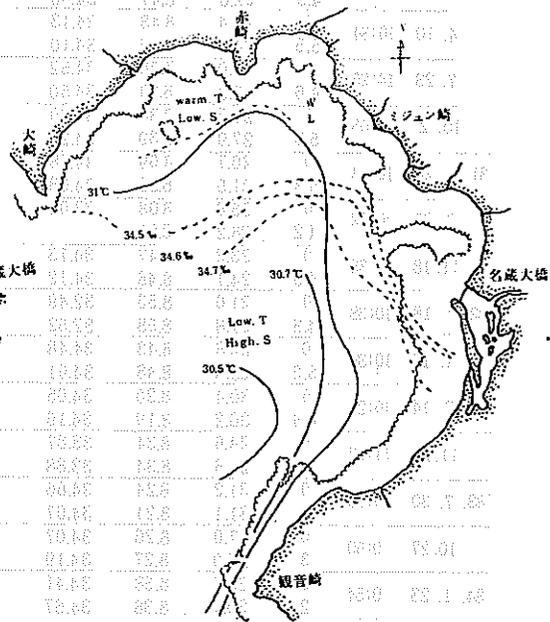


図-7 上げ潮水温塩分水平分布
—— 等温線 --- 等塩分線

的高温低塩分の水が分布し、湾中央から観音崎よりの南側沿岸域は比較的低温高塩分の水が分布し、湾域の大部分はこの水にカバーされている。また上げ潮時、沖合は強い北西流が北上しているため²⁾湾内への流入水は大崎よりの北側沿岸よりも観音崎よりの南側沿岸に沿って流入する海水量が多くなる。

② 下げ潮時：水平流況を図-8に示した。これから、浅所から深所へ向う潮汐流であり、上げ潮時と逆の流向を示す。概観すると、湾奥の水は南東方向に沿岸に沿って湾外へ流出している。沿岸浅所の流速は 10cm/s 以下と小さいが、大崎及び観音崎の沿岸部は $15\sim 22\text{cm/s}$ とかなり強くなる。なお下げ潮時の沖合域は南東流が卓越する。²⁾下げ潮時の水温塩分水平分布(図-9)をみると北側沿岸は低塩分域が上げ潮時に比べ広く分布している。これは北側沿岸域は陸域から流入する河川水及び陸水が滞留しやすいことを示している。

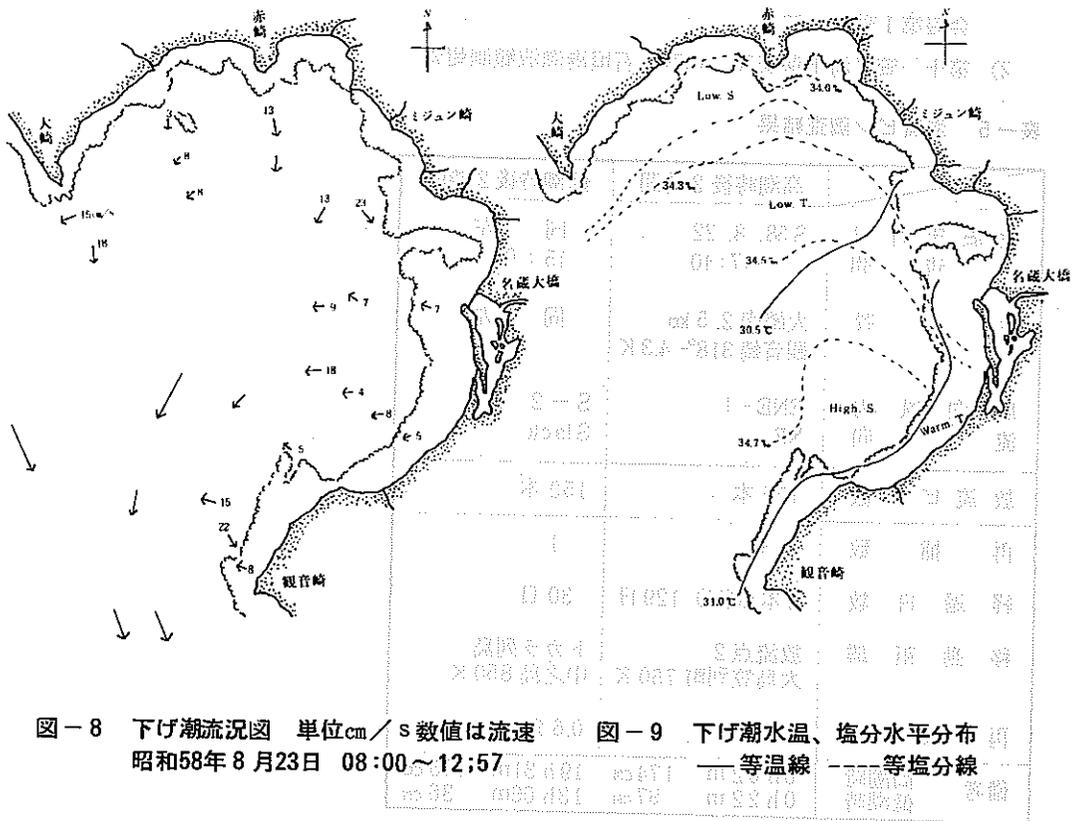


図-8 下げ潮流況図 単位 cm/s 数値は流速 図-9 下げ潮水温、塩分水平分布
昭和58年8月23日 08:00~12:57

③ 海流ビン調査結果：実施経過は表-5にみるとおりである。放流地点を名蔵湾口部のほぼ中央にとって、高潮時後2時間と低潮時後2時間に夫々150本放流した。予想に反して結果は、湾内の沿岸域への漂着はゼロである。再捕状況は高潮時放流分3本で、うち2本は放流直後の再捕で、1本は奄美大島で129日後に回収された。低潮時放流分1本は30日後にトカラ列島中之島で回収された。従って沖合から湾内への卵稚仔輸送経路の推定にこの結果は用いられない。

